



## 美馬ロータリークラブ週報

2011年7月26日 火曜日 Vol.251

例会出席者 19名(会員総数29名) 修正出席率 82.7%  
メーキャップ なし  
ゲスト ありません  
会長挨拶 藤野章二会長

久方ぶりの台風襲来と言う事で、先週は臨時休会と言う事にさせて頂きましたが、幸い被害もなくメンバー各位には、益々ご健勝でご活躍の事何よりかと存じます。17日日曜日は、美馬商業高校のIACとの交流を兼ねた清掃奉仕作業にご参加頂いた皆様、大変お疲れ様でございました。IA委員をはじめ関係の各委員長、メンバー各位には、準備から後始末まで段取り方大変お苦勞でございました。疲れを癒す間もなく18日早朝は、眠気を吹き飛ばすような「なでしこジャパン」の活躍に多くの皆様が胸躍らせた事と思います。一度、二度先行を許しながら、その度、奇跡的に追いつき最後は、Pk合戦できわどく勝利するというまさにドラマチックな戦いは見る者に全てを忘れさせ感動を与える素晴らしいゲームであったと思います。大活躍のその彼女達に今、国民栄誉賞と言う動きがあるそうです。私も感動を与えられた一人として異を唱えるつもりはありませんが、現政権の人気取り?一人よがりの感がいなめませんし、時期尚早の様にも思います。今の彼女達にはもっとトレーニングに打ち込める時間と幅広く活躍できるスペースを与える事、資金援助を含めた広い意味の環境整備こそが必要でしょう。後に続く少年少女達の夢であり目標であり続けるために清く純粋なスポーツマンスピリッツに衽を着せる様な不粹な行為は、彼女達も望まないと私は思うのですが……。

### 幹事報告 前田豊太郎幹事

#### 到着書類

鴨島RCよりクラブ運営計画書が、届いております。  
御所RCよりクラブ運営計画書が、届いております。  
阿波池田RCよりクラブ運営計画書が、届いております。  
また、阿波池田RCより2010~2011年会報が、届いております。  
片山 朝生前ガバナー補佐より退任のあいさつと決算書が来ております。  
インターアクト年次大会・ウォーキングの注意事項が届いております。  
脇町RC・鴨島RCより週報が来ております。  
更生保護協会桑原様よりチャリティーゴルフの集約が来ております。  
東日本大震災義捐金の報告が届いております。

### 委員会報告

#### インターアクト委員会 山内 浩司小委員長

7月17日(日)美馬商業高校インターアクトの皆様との清掃活動大変お疲れ様でした。32名の参加の基、清掃奉仕活動ができました。ありがとうございました。

#### 新世代活動委員会 澤田 篤也小委員長

第61回“社明運動”美馬地区決起大会において、「お茶」の寄附をありがとうございました。

#### 理事・副幹事 横内 優

平成22年度出席100%の方々に記念品を贈呈いたします。  
廣川 公利、田中 義美、長浦 保福、前田 豊太郎、秦 健司、横内 優、森 廣一、廣川 公利・森 廣一の2名は、5年連続出席です。

プログラム委員会 西岡 香小委員長

本日の卓話者は、青木 博美・七田 義貞様です。

卓 話 青木 博美

【利他学】小田 亮

美人に見られている男性は、より他者に対して気前よくふるまうという実験結果がある。一方、ケチな人は人の記憶に残るが、気前の良い人はそれほど残らないという。本書には、このような興味深い実験結果が随所に提示されている。しかし、本書は処世術の本ではない。それらは人間の利他行動を解明するために援用されているのだ。利他とは、他者の利益になる行動だ。電車で席を譲る、人が物を落としたときに拾うなど、他者のために動いたことがない人は少ないだろう。東日本大震災では多くの方が被災地に義援金や物資を送り、救援に駆けつけた。なぜ人間はこのような行動をするのだろうか。リバース・エンジニアリングという考え方がある。「機能」が何であるかが分かると、その「しくみ」の理解が進むという考えだ。本書では、人間行動進化学の専門家である著者が、「機能」と「しくみ」から利他のメカニズムを平易に説明している。赤の他人への利他行動は互恵的利他以て説明される。つまりはお互いさまだ。そして、その利他行動は、直接的なお返しがなくとも、評判が立つことで第三者によって報われるのではないか。人の利他性と周囲の社会的なサポートとの間に関連性が確認されたという。情けは人のためならずだ。20世紀末からの研究は、利他性は社会生活によって学ぶことができるということを示している。本書でも制度や規範から、うば捨て山の話まで、社会との関係性が幅広く取り上げられている。利他行動を包括的に解明した本書の誕生は、従来のような行政主導のシステムに頼るのではない、利他性に富む市民社会が希求されていることの証左でもあろう。本書の圧巻は、人間には、利他主義者とそうでない人がある程度見分ける能力があるという指摘だ。人は見た目ではないといぶかしがる人は、その実験手順も含めてご自身で本書を検討していただきたい。

卓 話 七田 義貞

【職場のPR】

現在美馬森林組合の方で仕事をしておりますが、職場のPRをさせてもらいたい。

合併前、旧7ヶ町村に一つずつあった森林組合が、3度の合併を歴て平成19年に旧美馬郡が一つになり、現在の美馬森林組合が誕生した。

組合員数(山持ち)約5,600人いるが、それぞれの所有森林を職員が営業を重ねながら、間伐等(搬出・切り捨て)の仕事させてもらっている。

本県は恵まれている所があり、間伐材の搬出においては、良質材は美馬木材市場で売られ、B材等については小松島にある合板工場へ送り、また、C材(木の根元の曲がった部分、先端部分)については、これも小松島にあるDF原料として根元から先まで有効活用に努めている。これによってこれまで苦勞してきた森林所有者に少しであるが所得還元ができるようになった。

組合の組織としては、役員24名、職員10名、作業班員(緊急雇用を含めて)約40人という大所帯で森林整備を進めながら環境保全に努めている。

職員、作業班員平均年齢約43歳と比較的若い組織となっており、京阪神方面からのUターン者も多く、美馬市内又、近隣に居をかまえながら頑張ってもらっている。

若い人が多いことから、現在は機械化が進み、小型高性能林業機械により作業道を開設しながら搬出間伐を中心に事業展開を図っている。

昭和30年代、40年代は木材価格も今の3~4倍であったことから、木材を売りながら時には子供の学資に、又、嫁入りにと貴重な物となっていた。

その後、昭和60年代、平成に入っていくと木材価格は急落し、所有者も手入れ意欲の衰退と高齢化も重なって放置森林が多く見られるようになった。

現在、国、県においても林業の再生を重要な施策に掲げ、積極的な取り組みをしてもらっている。森林組合の役割も大きくなっていることから、組合員のため、又、県土保全からも積極的な事業展開が求められている。

ニ コ ニ コ

廣川 公利 前田 豊太郎 青木 茂生

欠席者

千葉 正樹、林 秀樹、浪越 繁男、藤田 茂樹、三好 亘、長浦 保福、小野 一史、小田 教仁、石井 正  
司、戸島 健治